

第5回ひらつか男女共同参画推進協議会 会議録

令和4年7月25日（月）15時00分～16時30分

平塚市庁舎本館7階706会議室（2）

出席委員 6人（辻委員、中津川委員、長谷川委員、石橋委員、安藤委員、大庭委員）

欠席委員 2人（永嶋委員、小池委員）

主催者 4人（新倉人権・男女共同参画課長、榮谷担当長、長谷川主査、加納主査）

1 開会

- (1) 欠席委員の確認
- (2) 資料の確認
- (3) 会議の公開について
- (4) 傍聴者希望について
- (5) 会長挨拶

2 第5回ひらつか男女共同参画推進協議会 議事進行：会長

（事務局）ここから、議事進行は会長にお願いいたします。

（会長）第5回ひらつか男女共同参画推進協議会の議題に入ります。

(1) 令和4年度男女共同参画に関する市民意識調査について【資料1, 2, 3】

（会長）それでは、議題1「令和4年度男女共同参画に関する市民意識調査について」、事務局から説明をお願いします。

（事務局）事前に送付した資料1は修正箇所がありますので、机上有る資料1《修正版》をお手元にお出してください。前回の協議会で出た意見等を踏まえて修正した調査票案です。修正箇所を申し上げます。まず、挿絵として使用していた人権イメージキャラクターの「まもる君」、「あゆみちゃん」についてですが、人権擁護委員の活動と直接関連した案件ではないので使用を控えるよう法務局から助言がありました。代わりに、無料でダウンロードできるイラストを使用しました。続いて、設問の文言や内容の修正箇所です。1枚目のフェイスシートの「① 性別」ですが、注意書きの「戸籍上の区分とは別に」を削除して、「ご自身の主観によりお答えください。」のみと簡潔にしました。続いて、「⑤ 同居している子ども」について、「2 いる」と回答した場合の子どもの年齢区分を「① 小学校入学前」、「② 小学生」、「③ 中学生以上」としました。続いて、問5の自由記載欄を「(1) 行政」と「(2) 企業(職場)」それぞれ一つずつ設けました。続いて、問11のDVの相談窓口についての設問ですが、まず相談窓口があることを知っているか問う設問を置き、「1 知っている」と回答した場合のみ、問11-1で、その窓口や機関はどれか問うように修正しました。続いて、問16の⑩ですが、「学校活動」という言葉は違和感があるという意見をいただいたので、「学校の授業や部活動、行事など」と分かりやすい文言に修正しました。

続いて、資料3をお手元にお出してください。回答結果を集計して報告書を作成する際にどのようなクロス集計を行えばよいか御意見を伺います。クロス集計とは、2つ以上の項目の回答内容をかけ合わせて、回答者の属性毎にデータを集計するものです。例えば、性別でクロス集計を行えば、男性と女性でどのような違いが見られるのか、年代でクロス集計を行えば、年代別にどのような傾向が見ら

れるのかなどを把握することができます。また、2つの設問をかけ合わせることも可能です。資料3は、設問毎にどのようなクロス集計を行うか事務局案をまとめた一覧表です。全ての設問において、性別、年代別、職業別のクロス集計を行います。それに加えて、該当する設問のみに行うクロス集計を表のとおり書き出しております。例えば、問1の男女の地位・立場の平等感について問う設問の「① 家庭生活」は、結婚の有無、つまり未婚者と既婚者でどのような意識の違いがあるのかクロス集計によって把握することができます。また、クロス集計の他に、前回調査や全国調査、神奈川県調査の各結果ともそれぞれ比較します。議題1の説明は以上です。

(会長) 前回の協議会で出た意見等を反映させた調査票の内容と、回答結果をどのようにクロス集計するか事務局案を説明していただきました。御意見等があればお願いします。

(委員) 問3「男女共同参画に関する言葉の認知状況について」ですが、就業状況によってどのような傾向が見られるのか興味深いです。

(会長) 問4「生活の中での各活動に費やしている時間について」ですが、「小学校入学前（6歳未満）の子どもを持つ2世代世帯」を特筆してクロス集計する意図を教えてください。

(事務局) 国の第4次男女共同参画基本計画の指標となっており、当市の現行プランにおける指標にもなっているため、当該世帯についてクロス集計を行います。

(会長) 小学生の子どもが同居している世帯についても気になります。小学生の子どもは何かと手がかかると思われるので、クロス集計すると興味深い結果が出るかもしれません。また、問6「ワーク・ライフ・バランスの実現について」ですが、同居する子どもの状況によって、どのような傾向が見られるのか興味深いので、それについてもクロス集計してみたいと思います。

(会長) 問7と問8は、家庭における役割分担の「状況」と「考え方」をそれぞれ問う設問なので、比較するために、同じクロス集計を行えば何か興味深い傾向が見られるかもしれませんね。

(事務局) 問7と問8は、それぞれ「結婚の有無」と「世帯構成」のクロス集計を行って、どのような傾向が見られるか確認してみます。

(委員) 問9「DV行為の認知度について」ですが、「結婚の有無」ではあまり差が出ないように思われます。

(委員) そもそも「結婚の有無」について、当調査においては「結婚している」という選択肢に「事実婚や同性カップルを含む」としており、様々な状況の世帯が含まれるので、想定しているような比較ができるのか疑問が残ります。

(会長) 「結婚の有無」でクロス集計してみて、たとえ結果に差異が見られなかったとしても、考察する材料にはなり得るので、とりあえずクロス集計してみる価値はあると思います。

(会長) 最後に調査票を送付してから、回答をまとめるまでの流れを簡潔に説明してください。

(事務局) 市内在住の18歳以上79歳以下の方を無作為抽出に3,000人選んで、9月8日（木）に調査票を送付する予定です。回答期限は10月7日（金）としています。11月下旬に開催予定の次の協議会までには、概要版（案）を作成して議題としてあげてクロス集計について御意見を伺えたらと考えております。

(2) 令和4年度イクボスプロジェクトについて【資料4】

(会長) それでは、議題2「令和4年度イクボスプロジェクトについて」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料4をお手元にお出しください。まず、イクボスプロジェクトの趣旨、目的ですが、男女共同参画社会の実現に向け、「イクボス」の認知度を高め、イクボスが増えれば組織が変わり、平塚のまち全体が変わることを認識させて、事業所の働き方改革の推進につなげることを目的に実施する事業

です。プロジェクトには、参加することでイクボス宣言をしてみようというきっかけとなること、市内全体のムーブメントとなるような機運作りという狙いがありました。平成29年度から、この協議会が女性活躍推進協議会の役割も担っていただいたことから、委員の皆様の御意見をいただきながら、一緒にイクボスプロジェクトの内容を御検討いただきてきたところです。今年度のイクボスプロジェクトにつきましては、昨年と同様、オンラインでの動画配信による講演会として実施すべく、お手元の資料4にありますように検討を進めています。

まず、日程については、11月中旬から1か月程度の動画配信期間を設け、当該期間中に自由に視聴いただく形で考えています。配信する動画については、講師による講演の様子を事前収録したものを配信する予定です。今回の講演では、「職場におけるアンコンシャス・バイアス」をテーマに選定しています。これは、昨年の動画配信で申込者に視聴後アンケートを実施したなかで、今後聞きたいテーマは何か聞いたところ、最も多くの票を集めたのが「職場におけるアンコンシャス・バイアス」であったためです。将来予測が困難な時代において企業が持続可能な発展をしていくためには、女性をはじめとする多様な人材の活用が欠かせないなか、「組織のリーダーは男性が向いている」などのような、性別によるアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）が女性活躍を阻む要因の1つとして考えられています。女性が能力を最大限発揮し、活躍できる職場環境をつくっていくために必要なアンコンシャス・バイアスの知識やその対処法について、具体例を交えながら講演していただきます。

講師につきましては、株式会社マイキャリア・ラボ パートナー講師であるハッピーライフ・サポート代表の日下部 令子氏を候補として検討しております。日下部氏は一般社団法人アンコンシャスバイアスの認定トレーナーであり、キャリアコンサルティング技能士2級、国家資格キャリアコンサルタントなどの資格をお持ちのほか、人材の就職支援・キャリアサポートの従事経験が豊富であり、ビジネス系研修講師としても活躍されています。昨年は相模原市でもアンコンシャス・バイアスの講師を務められました。

昨年からの変更点といたしましては、事前申込の手続を不要とする点です。昨年11月の協議会で反省事項を協議した際に委員の方から、事前申込の手続が見る側にとっては手間になってしまうので、事前申込なしで動画を視聴できると良いのではないかとこの意見をいただいたことから、事前申込なしで全体公開するという条件で講師と調整しているところです。また、コロナ禍前に実施していた意見交換会に代わる取組として、イクボス企業に事前アンケートを実施し、提出された回答内容を講演会講師に提供し、コメントをいただくということと、今回新たに、配信動画を視聴後、アンケートで講演会に関する質問を募り、5件を上限として講師に文章で回答をいただくという取組を実施したいと考えています。

委員の皆様には、講師にはどのようなところを重点的に話していただいたら良いか、企業の方達が興味をもってもらうためにはどのようなタイトルがいいか、といった視点で御協議いただければと思います。よろしくお願いたします。

(会長) 昨年度に引き続き、オンラインでの開催になりますがなるべく講師と視聴者がコミュニケーションを取れるように工夫されております。御意見等がありましたらお願いします。

(委員) 対面で行う講座では最後に質疑応答の時間を設けることが多いので、同じ様に質疑応答の形が取れて良いと思います。

(会長) 今年度は事前申込が不要なので、視聴回数がバロメーターになるのでしょうか。

(事務局) 視聴回数が受講者数のバロメーターになります。委員の皆様には周知の御協力をお願い申し上げます。

- (委員) 「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知度はまだ低いと思われ、私も初めて聞きました。
- (事務局) まずは、「アンコンシャス・バイアス」という概念を知ってもらい、程度の差はあれど誰もが持っているものだからこそ、どのように気を付けなければならないかなどをお話ししていただけることになると思います。
- (会長) 「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知らない人でも興味を持っていただけるように工夫した広報が必要だと思います。
- (事務局) チラシには「アンコンシャス・バイアス」の意味を説明する文言も記載して、広く様々な方に興味を持っていただけるように努めます。
- (委員) 紙媒体のチラシはどこで配架するのでしょうか。
- (事務局) 当課の窓口、勤労会館でチラシを配架するほか、産業振興課が発行している情報誌「勤労ひらつか」にも掲載していただく予定です。
- (委員) 市民活動センターや公民館などにチラシを置けば、正規職員は退職したけれども非正規雇用で働きながら、地域活動や市民活動をしている方々の目に留まる機会になるかもしれません。
- (事務局) これまでは対象となる方々が主に企業の経営者、管理職などを想定していましたが、今回は事前申込が不要ということもあり、また講演のテーマとしても広く市民の方に知っていただくと良い内容なので、御提案のあった場所などもチラシを置けるよう検討したいと思います。
- (委員) 電子データのチラシがあれば、一斉メール等で容易に広く周知することが可能になるのですが電子データで提供していただくことは可能でしょうか。
- (事務局) チラシは事務局がワードで作成しているものなので、電子データを提供することは可能です。チラシができあがりましたら、電子データで提供させていただくので、是非たくさんの方に周知していただければと思います。

(3) 令和4年度イクボスグッズについて【資料5】

- (会長) それでは、議題3「令和4年度イクボスグッズについて」、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 資料5をお手元にお出しください。イクボスグッズは、「イクボス」を知ってもらい、イクボス宣言につなげていくための普及・啓発を目的に例年製作しているものになります。当初予算で50,000円を確保しておりますので、当該範囲内の額で製作します。イクボスグッズは、これまでロゴマーク・ステッカー、クリアファイル、ふせんメモなど製作してきました。昨年度は不織布バッグを250個、49,500円で製作し、新たに登録されたイクボス企業やイクボスプロジェクトの参加企業に配布しています。
- 今年度につきましては、資料5のとおり、マルチポーチを検討しています。文具などを入れることはもちろん、マスクやウェットティッシュなども入れられるので、ある程度汎用性は高いものになると思われま。予算の関係上、色はイクボスマークの赤に合わせて文字も赤の一角のみとなる予定です。
- また、イクボスグッズの配布先についてですが、昨年度同様、委員の皆様の所属団体において、グッズを配布できる機会を是非提供していただければと考えています。会議の場はもちろん、会員団体に何か書類を送付する際に同封させていただく形でも構いません。御検討いただければと思いますので、よろしくお願いたします。説明は以上です。
- (委員) ポーチのサイズはどの程度なのでしょうか。
- (事務局) 正確なサイズは不明ですが、A4の半分程度の大きさです。
- (委員) 令和2年度イクボスグッズのふせんメモは良かったと思いました。ただ、表紙のみにイクボスマー

クが入っており、ふせん自体は無地だったので、ふせんにもイクボスマークが入っていればなお良いと思いました。

(事務局) 予算上、ふせん自体にイクボスマークを入れることは出来ず、表紙のみにイクボスマークを入れる形になりました。

(委員) ふせん自体にデザインを入れるのは単価が高くなるので、単なるメモ帳などであれば比較的安価に抑えられると思われます。また、今年度のポーチについて、予算の関係上やむを得ないとは思いますが、100個というのは少ない印象があります。

(事務局) 過去に制作したイクボスグッズもまだ在庫がかなりあるので、100個程度でも特段支障がないものと考えております。

(委員) ウェットティッシュやマスク、テーブルナプキンなどもグッズとして需要があるのではないかなと思いました。

(会長) マグカップはいかがでしょう。

(事務局) マグカップですと、予算の範囲内での製作は難しいと思われます。グッズデザインの検討に当たってはイクボスマークを必ず入れることを想定していますが、そうするとグッズの製作会社へ指定されたファイル形式でデザインデータを提出する必要があります。しかし、市役所ではセキュリティ上対応していないことから、データ入稿を代行してくださる業者に作成を依頼する関係上、製作できるグッズが限られてしまうという制約があり、御提案いただいたグッズの製作は難しい状況です。

(委員) 単価に換算すると、一つ当たり500円弱と啓発グッズとしては高価なので、それだけ啓発効果があるものにしたいですね。

(事務局) そうですね、デザインの入稿費など、色々な費用がかかるので単価が高くなっております。その分、長く愛用されて長く啓発できるようなポーチにしたいところです。

3 事務連絡

4 開会

(事務局) それでは、以上をもちまして、第5回ひらつか男女共同参画推進協議会を終了いたします。長時間どうもありがとうございました。

以 上